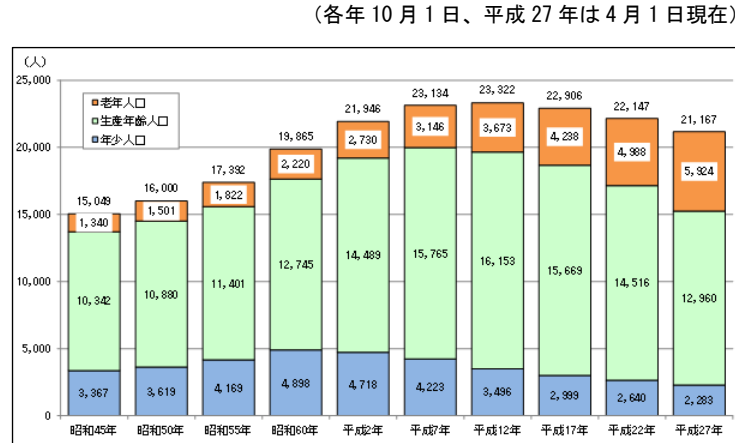


1 本町の人口動向

(1) 総人口

- 昭和45年から平成12年までの30年間は増加。平成12年度以降は減少。
- 近年は少子高齢化が一段と進行している。

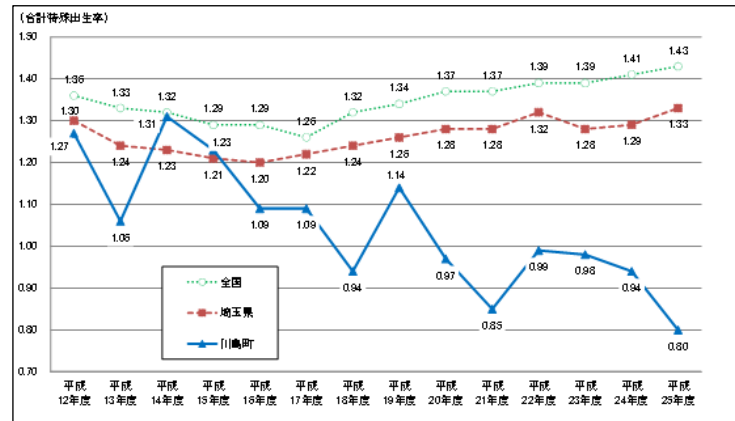
昭和45年：15,049人
↓
平成27年：21,167人



(2) 結婚・出産

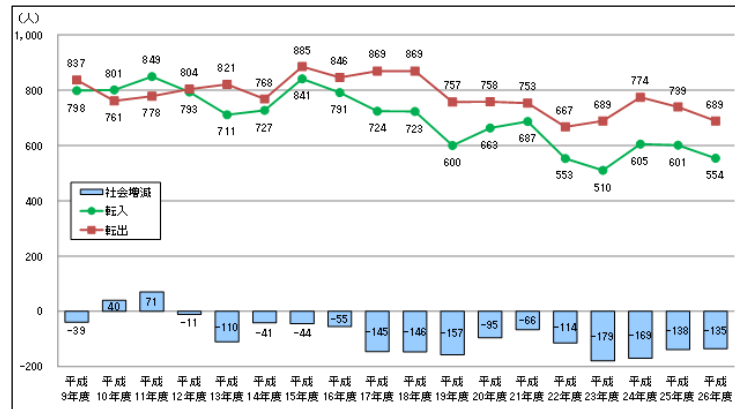
- 未婚化、晩婚化が急速に進行中。
- 平成16年以降は「自然減」が続く。
- 出生数はやや右肩下がり。年間110人台。
- 本町の合計特殊出生率(※)は低下傾向。平成25年は0.80(表)で、県内60番目の低さ。
- 出生率が25~34歳で大きく低下している。

※合計特殊出生率：一人の女性が生涯に産む平均子ども数の推計値



(3) 転入・転出

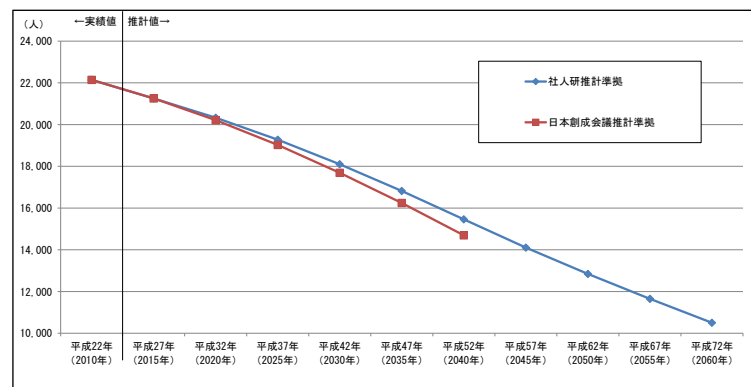
- 転入は、平成19年度からは500~600人台。
- 転出は、平成19年度以降、年間600~700人台。
- 平成12年度以降は転出超過(社会減)が続く。
- 特に平成17年度以降は転出超過が大きい。年間の社会減少(転出超過)は150人前後。
- 首都圏中央連絡自動車道川島インターチェンジ開通とその周辺の産業団地整備による企業立地によって平成20年頃は増加した。



2 人口推計シミュレーション

- 社人研、日本創成会議の推計とも中長期的に人口減少が進む。
- 人口減少対策の成果次第で人口減少のスピードをゆっくりさせることは可能。

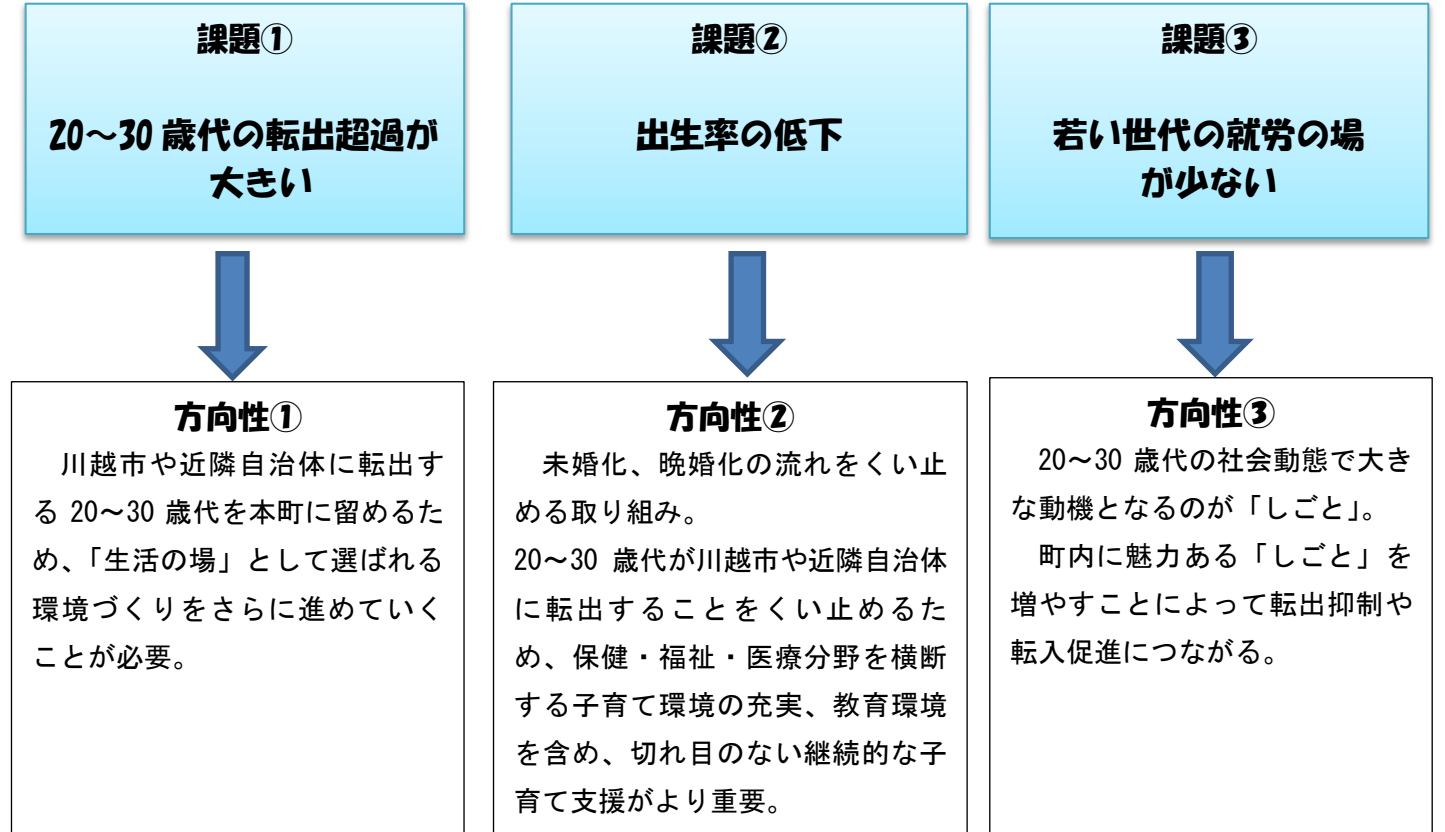
将来人口に「出生」がより大きく影響する



3 人口対策における川島町の視点(方向性)

本町の人口動向と町民アンケートの分析結果に基づき、3つの課題が挙げられました。課題から導き出された人口対策の視点(方向性)は次のとおりです。

20~30歳代の社会減(転出超過)をくい止める対策が当面の人口対策として重要



4 人口の将来展望

